

Share Stage サービスって何?



関口定一所長

6月11日から中央大学で Share Stage サービス (=インターネット情報活用サービス) が始まった。とは言っても、一体 Share Stage サービスとは何なのか、ほとんどの人がよく分からないのではないだろうか。そこで、早速、このシステムについて情報研究教育センターの関口定一所長(商学部教授)に、そのサービスの内容、利用方法についてお話しいただくことにした。

(学生記者 真田季実子)

「皆さんがコンピュータを利用してワープロの文書を作ったとき、そのファイルの保存はハードディスクか、MO、フロッピーディスクに保存していると思いますが、この方法ですと、大学で作成した文書を自分の家で編集したいときには、常にフロッピーディスクに保存して持って帰らなくてはなりません。ところが大学のパソコンのハードディスクに文書を保存するときに、この『Share Stage (インターネット上のディスク)』に保存してしまえば、自宅にインターネットを利用する環境があれば、ここに保存した文書を参照し変更することができるのです。つまり、自分のハードディスクがインターネット上にあり、フロッピーディスクなどを持ち運びしなくてもよい環境が出来上がったということです。加えて、数人のグループで一つの文書を編集したい場合などは、グループ利用機能を使い、その場所に保存することで、ゼミやサークルの仲間との共通領域が

確保されるという訳です。授業で考えれば、先生が課題を入れておけば、受講している学生がそれを確認して、同じ領域にレポートを提出するなどの活用方法が考えられます。つまり、『インターネット上での情報共有の場』ということですね。この他にもいろいろな活用方法が考えられますが、それらについては、実際に利用しながら自分達なりの利用方法を発見してほしいのです。」とのことであった。要約すれば、通常パソコンに付いているハードディスクが、ネットワーク上に移動して、しかも仲間同士での利用もできるということのようだ。ということは、手元に小さなパソコンを用意するだけで、今までのパソコンと同じように利用できることとなる。いずれ、携帯電話がもっと大きな機能を持つようになれば、これがパソコンの代わりとして利用できる可能性も生み出したことになる。今までのパソコンとネットワーク、携帯電話のイメージを大きく変えることにつ

ながっているのかも知れない。そこで、次にどうすれば利用できるようになるかということについて聞いてみた。「利用方法は、皆さんが所属する学部の窓口でIDとパスワードが書かれたメモをもらい、中央大学の公式ホームページから Share Stage のページへ飛び、指示に従いながら各自で試して欲しい。」とのことであった。個人に割り振られる領域は、50Mバイトまで無料ということで、フロッピーディスク40枚程度と考えると想像がつく。ただ、映像データのような大きなデータを保存するとしたら、50Mバイトという領域は、すぐ一杯になってしまう。そこで、もしも領域が不足した場合は、有料で領域を借りることができるということである。

インターネット機能の一つを利用した今回のシステムは、先にも述べたが情報の伝達方法を一変させる可能性を秘めている。ルールを守って、できるだけ有効に利用したいものである。